

**「平成28年度飼料用米多収日本一 関東農政局長賞」
受賞者の取組概要**

【茨城県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	<small>キムラ タカマサ</small> 木村 孝正
所在地	茨城県鉾田市
品種名及び作付面積	あきだわら(知事特認品種): 約1.5ha
10a当たり収量	733kg/10a
地域の平均単収からの増収	216kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等 ・家族経営(本人, 妻, 期間雇用数名)により, 水稲2.7ha, ホウレンソウ1.2ha(延べ)の複合経営。地域の担い手として, 水田作業の受託を行う等, 経営規模の拡大に取り組んでいる。</p> <p>○多収品種の導入 ・H26年から飼料用米として「ゆめひたち」等の生産を開始し, H28年はJAのアドバイスにより, 耐倒伏性に優れる知事特認品種「あきだわら」を導入し, 全経営面積を飼料用米に切り替えた。</p> <p>○多収・コスト削減のための取組 ・収量を確保するため, 中干しや間断灌漑を確実に実施し, 田面を硬くして稲の倒伏を防ぐとともに, 根張りをよくして良好な登熟に努め, 未熟粒の発生を抑えている。また, 追肥は生育状況を確認しながら, 適期施用を心がけるなど, 基本技術に忠実に取り組んでいる。</p> <p>・省力化の取組として, 40株/坪の疎植栽培(地域慣行50株/坪)とすることにより, 苗箱の使用枚数や運搬枚数を減らしている。また, 追肥として安価な肥料(尿素)を使用し, 肥料費を節減している。</p>

【栃木県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	佐藤 喜久男
所在地	栃木県矢板市
品種名及び作付面積	月の光(知事特認品種):約1.8ha
10a当たり収量	739kg/10a
地域の平均単収からの増収	188kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営形態 : 稲、麦、そば ・経営面積 : 42ha ・作付品種 : 主食用米 20.73ha(コシヒカリ) <li style="padding-left: 2em;">: 飼料用米 14.38ha <li style="padding-left: 2em;">(ひとめぼれ12.12ha・月の光1.8ha) <li style="padding-left: 2em;">: 二条大麦 25.52ha <li style="padding-left: 2em;">: そば 12.47ha <p>○多収品種の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月の光は、27年産から耐倒伏性であること、知事特認品種であることを理由に作付を開始した。 <p>○多収・コスト削減のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施肥回数等の削減を図り、基肥としてBBオール14 [14-14-14]を 50kg/10a、追肥はBBNK-202号 [20-0-20]を 20kg/10a施用し多肥栽培を行った。 ・自家調製によるフレコン出荷を行い、低コストを図った。

【埼玉県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	株式会社ウエテック 代表取締役 <small>ウエハラ</small> 上原 <small>マサシ</small> 正
所在地	埼玉県熊谷市
品種名及び作付面積	オオナリ:約2.0ha 北陸193号:約3.7ha 夢あおば:約2.8ha
10a当たり収量	714kg/10a
地域の平均単収からの増収	246kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年に設立した法人で、水稻(23ha)、小麦(2.5ha)の主穀経営である。飼料用米は13ha栽培しており、水稻の約60%を占めている。 <p>○多収品種の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼料用米は、多収品種3品種(オオナリ、夢あおば、北陸193号)と食用品種1品種を組み合わせている。品種は縞葉枯病の抵抗性を有するものから選択した。 <p>○多収・コスト削減のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一品種には統一せず4品種を組み合わせることで収穫時期をずらして、労力の分散を図っている。また、新品種である「オオナリ」の栽培に取り組み、農研機構と品種利用許諾契約を締結している。 ・多肥栽培による多収に取り組んでいる。(N成分でオオナリ:14.2kg/10a(基肥9.6、穂肥4.6)、夢あおばと北陸193号:9.5kg/10a(基肥7.2、穂肥2.3)) ・縞葉枯病抵抗性品種を栽培することで、薬剤散布回数削減や薬剤費のコスト低減を図っている。 ・自社が飼料用米を含めた米の登録検査機関に指定されたことで、検査が効率的に行われている。

【千葉県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	<small>ジツカワ マサオ</small> 實川 正雄
所在地	千葉県匝瑳市
品種名及び作付面積	夢あおば:約2.6ha
10a当たり収量	751kg/10a
地域の平均単収からの増収	169kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族経営(本人、息子)により、水稻5.44ha(主食用米2.6ha、飼料米2.6ha、稲WCS24a)を作付け。また、ニラ40aの栽培も営む。 <p>○多収品種の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多収品種は平成22年から「モミロマン」「べこあおば」を栽培してきたが、稲WCSと兼用できることや、主食用品種と収穫時期をずらす目的から、平成27年産からは「夢あおば」で取り組んでいる。多収品種導入当初は40aから始めたが、収量の良さから、年々多収品種の割合を増やし、現在の2.6haとなった。 <p>○多収・コスト削減のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植えは50株/坪の設定で行い、育苗箱を23枚/10aから18枚/10aに減らし、播種から田植えまでの資材費及び労働費を低減。 ・元肥として鶏糞60kg/10a、化成窒素6kg/10a。追肥で化成窒素6kg/10aを施用し(慣行ほ場は化成窒素8kg、追肥無し)、栽培期間中、常に葉色を濃く保った。 ・栽培ほ場に基盤整備事業実施地区を選んだので、ほ場が大区画化・均平化されていて作業効率が良く、労働費の削減ができた。

【長野県】

褒賞名	関東農政局長賞
受賞者名	<small>イチカワ カズナリ</small> 市川 一成
所在地	長野県佐久市
品種名及び作付面積	ふくおこし(知事特認品種):約5.9ha
10a当たり収量	812kg/10a
地域の平均単収からの増収	160kg/10a
取組内容	<p>○経営形態等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営形態は個人。通常2名で作業、農繁期はバイトを5～6名雇用。 ・全経営面積は21.64ha。内水稲作付面積17.35ha。 ・作付品種 ふくおこし5.93ha、風さやか1ha、コシヒカリ10.42ha <p>○多収品種の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産数量目標達成のため、WCSを1年、米粉用米を2年取り組んだ後、26年は主食用品種のコシヒカリで飼料用米に取り組み、27年産から長野県知事特認品種である「ふくおこし」をJAの薦めで作付けをする。28年産の飼料用米(ふくおこし)の作付けは、5.93ha。 <p>○多収・コスト削減のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗箱はミノル式、通常の播種量110g/1箱のところ120gと若干多めにした。 ・田植期は、主食用の田植えの終了した6月2日(～13日)から始め、主食用の刈取りが終了した11月1日(～7日)頃から刈取りを始めた。 ・施肥については、分けつあまりしない品種であることを昨年の作付けで経験しているため、追肥は行わず、元肥をコシヒカリの約2倍の量を施肥した。 ・水管理は、通常どおり行い、ガス抜き及び作業性を考え中干しを7月上旬に実施した。 <p>・作業の効率化を図るため、ほ場を集団化した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コスト削減を考え、肥料は主食用で使用しているものより安価な肥料を使用した。また、省力化を考えて追肥は行わず基肥のみ施用した。